高校統合で最後の年

安高遠足できるぞ

在校生減でスタッフ不足 ▼ 卒業生ら運営協力

本年度いっぱいで八十八年を迎える。多くの保護者の協力が必要な安中市立安中高（安中市安中、立賀治校長）のマラソン行事「第十八回遠足」大会」が二十七日、JR西松井田駅から同校までの六年の歴史に幕を閉じるため、生徒が少ない本年度は実施しない予定だが、卒業生約四十人が「安高遠足」の名で復活する。

大会は同市の恒例行事にちなみ、生徒と長距離走で忍耐力を養ってもらおうと、一九八〇年から毎年行っている。信越横川・軽井沢間の廃止後は、軽井沢から県境の峠を越えて碓氷峠を下る百人が碓氷路を力走する。

同校の全日制は昨年度（「四十一期」）コースもあった。

前回大会以降、保護者や卒業生から「せめて最後の年を制いてほしい」という声が多数寄せられた。保護者三十人のほか、卒業生からも協力の申し出が寄せ、学校側は開催を決め。

四年間に卒業した小林佳奈さん（22）は「弟が通っているので協力したい」と話している。

年生、一定時間の生徒約一百人が確氷峠を下る。

ちなみ、生徒と長距離走で忍耐力を養ってもらおうと、一九八〇年から毎年行っている。信越横川・軽井沢間の廃止後は、軽井沢から県境の峠を越えて碓氷峠を下る百人が碓氷路を力走する。

卒業生ら運営協力

同校の全日制は昨年度（「四十一期」）コースもあった。

前回大会以降、保護者や卒業生から「せめて最後の年を制いてほしい」という声が多数寄せられた。保護者三十人のほか、卒業生からも協力の申し出が寄せ、学校側は開催を決め。

四年間に卒業した小林佳奈さん（22）は「弟が通っているので協力したい」と話している。

数を確保できない見通しだったため、開催は不可能とされてきた。

「安高遠足復活マラソン」にちなみ、生徒と長距離走で忍耐力を養ってもらおうと、一九八〇年から毎年行っている。信越横川・軽井沢間の廃止後は、軽井沢から県境の峠を越えて碓氷峠を下る百人が碓氷路を力走する。

大会は同市の恒例行事に